

No.1603

第1604 回例会

2013年11月29日(金) 12:30～13:30
点鐘

ロータリーソング “奉仕の理想”

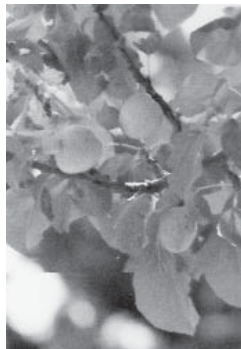
会食 (洋食)

会長会務

* ビジター紹介。

* 木の話 (19)。

今日は、早春の故郷に
可憐な花を咲かせ、
「演歌のふるさと」の
歌詞にもなったバラ科
のアンズについてお話し
ます。



* 11月の皆勤賞をお渡しします。

生馬美津雄会員 7年

幹事報告

* 12月のロータリーレートのお知らせ

\$1 = 100円

* 12月のスケジュール

12月 6日(金) 定例理事会

12月 8日(日) 次期クラブロータリー財団

委員長研修会 (益田)

12月13日(金) クラブ奉仕委員長会議

12月20日(金) 年忘れ家族会 18:30～

12月27日(金) 定款により休会

委員会報告

* 親睦活動・出席委員会

出席率・スマイル報告

* その他

卓話「護身術の考え方と体術」

会員 大田原俊輔さん

先週(第1603 回例会)の記録

2013年11月22日(金) 12:30～13:30

会長会務

* 木の話 (18) 早春に桃色の美しい花を咲かせ、ひな祭りの花として、みんなに親しまれるバラ科のモモについてお話しします。

文献によりますと、古くは日本でモモとさえ、果物全部を指していましたが、桃が大陸から入ってからはその名を占有しました。

落葉小高木で幹の高さは5m、胸高直径は30cmになります。葉は互生、線状楕円形で長さ8-15cm、細い鋸歯があります。早春の4月初め前年枝の葉脈に花をつけます。そして葉が開くより先か、同時に開花します。花弁は5個、淡紅色の美しく、可憐で、早春の山野を飾ります。

果実は7-8月、黄白色から紅色に熟します。実の形は球形または卵円形で直径が5-7cm、先が短く尖って縦の溝があります。熟れた実は甘く美味しく、古くからモモの名前を独占した将に果物の王者です。

モモは中国北部の原産で、日本には極めて古く渡来し栽培されました。種子は縄文土器とともに出ます。また、花木としても重宝され、多くの園芸品種が栽培されています。

幹事報告

* ガバナー事務所より、2014～2015年度奨学生募集のご案内

ロータリー財団の奨学金は「地区補助金奨学金」「グローバル奨学金」の2種類です。

ガバナー月信のファイルを配布しています。

* 鳥取 RC 60年史をいただきました。

* 12月20日(金) は年忘れ家族会で夜間例会となります。場所は鶴の間になりますので、お間違えないようご注意ください。

出席率

11月22日 会員54名 欠席 10名 81.48%

11月8日 メーキャップ 5名 81.13%

メーカーアップ会員

- 11月16日 西尾 茂会員 竹内 隆会員
鳥取中央RC創立25周年記念式典へ
- 11月18日 田中章夫 林 壽延 矢谷英志
加藤一吉 田淵敏夫 平野敏和 錫木卓朗
大田原俊輔 金田卓也の各会員 鳥取中央RC
へ
- 11月21日 大田原俊輔会員 鳥取RCへ

スマイル

- * 西尾 茂会員 / 酒巻義雄さん、森原小百合さん、卓話よろしくお願ひします。創業記念日祝ありがとうございました。
- * 山下卓治会員 / ①35周年運営委員会の皆様、ご苦労様でした。②写真ありがとうございました。
- * 竹内 隆会員 / 11月16日鳥取中央RCの25周年記念例会に招待を頂き、西尾会長と出席させて頂きました。森本ガバナーをはじめ竹内鳥取市長も来賓としてご出席されました。
- * 岡田信俊会員 / 酒巻義雄様、森原小百合様、本日は卓話をよろしくお願ひします。
- * 金田卓也会員 / 今日、PM6:00からのNHKいちおしNEWSとっとりで東部タクシーのドライバーが紹介されます。あと園のおもちつきも出るかも知れません。
- * 山下聖児会員 / 新しいCDプレーヤーの音が小さいような気がします。スマイルしますので、許してください。
- * 小林 一会員 / 勤労感謝の日は結婚記念日です。
- * 山本文正会員 / 創業記念日。
- * 田淵敏夫会員 / 誕生日。
- * 坂本 直会員 / ①誕生日。67歳になりました。②ゴルフ部夜会、葉狩さん、岩崎さん、お世話になりました。
- * 遅刻・早退6件 合計29,000円

ロータリー財団推進委員会 倭島昭博会員

今月はロータリー財団強化月間です。新入会員が入られたので\$10寄付をお願いします。

卓話「自分発見の場、盲ろう者友の会」

鳥取盲ろう者友の会 酒巻義雄さん
通訳介助者 森原小百合さん

- * 盲ろう者とは、目が見えにくく、耳も聞こえにくい方を言います。盲ろう者友の会は、そのような方の交流会を進める会です。支援する人と支援される人が同じ会を作って、その中で盲ろう者の自立や社会参加、さらには安心して盲ろう者も生活できるような世の中作りのために働こうとしています。この会は平成19年に盲ろう者2人と通訳介助者が集まって作りしました。ようやく今年5名の盲ろう者がメンバーに入りました。
- * 鳥取県には推定で105名くらいの盲ろう者がいます。この会は、鳥取県から委託を受けて派遣事業をしていますが、利用者が5名ちょっとです。もったいないです。
- * 盲ろう者の障害の程度による区分あり、私(酒巻)

は「全盲難聴」にあたります。他に「全盲ろう」、「弱視ろう」、「弱視難聴」があります。

障害の発生時期による区分というのは、言葉の習得の差による区分です。先天盲ろうは、言葉を習得する前に盲ろう者になってしまった方です。ヘレンケラーがこれにあたります。

「盲ベース盲ろう」と「ろうベース盲ろう」の違いは、どちらの障害を先に負ったかという違いです。どの言語を覚えて使っているのかという違いでもあります。

ろうベースの盲ろうの方は、もともとは目が見えていたので手話や漢字を書いているやりとりをします。漢字は「空缶」と書いて「からかん」と読んだり色々な読み方ができますが、手話や漢字でのやりとりをしている方は読み方は気にしないようです。それを音声言語にもっていくのは、まったく新しい言語を覚えることになって難しいそうです。

盲ベースの盲ろうの方は、視覚障害が先行してそのあとに聴覚障害が生じます。音声言語を先に覚えます。私(酒巻)は、盲ベースの盲ろうで、音声言語で言葉を伝えることができます。しかし、補聴器を入れないと耳から40~50cm近くでしゃべった言葉がやっと聞き取れるくらいです。

- * そのため現在盲ろう者が使っている言葉は、音声言語の場合、本日使っている特別な装置がマイクのようなものでありワイヤレスです。補聴器のところに受信機がついていてこれで受けることによってある程度大きな音声になります。こういうのを音声通訳といいます。これがないと通訳が必要です。

もう一つ「指点字」というものがあります。これを考案したのが東京大学の福島教授です。

さらに手話があります。発する方は手話で発します。でも受け取る側のときは見えないので、手話の形を触って読み取るようです。

他には、手の平に字を書いてコミュニケーションを取る人もいます。

このように様々なので、同じ盲ろう者でも会話ができません。通訳者が必要なのです。

- * 私(酒巻)は、盲ろう者友の会に入り、色々なコミュニケーションの違いが分かりました。ここに点字の機械がありますが、これが2つあるとワイヤレスなので相手も点字で会話ができます。このようなことができるようになるのが、盲ろう者の自分再発見なのです。目が見えなくても耳が聞こえなくてもやっていけるということをもっと多くの人に伝えたいのですが、どこに他の盲ろう者の方がいるのかが残念ながら分かりません。こういう会があるというのを広く知っていただくために、皆さんのお力を貸していただきたく思います。

次週例会予定

2013年12月6日(金) 第1605回例会
卓話 「鳥取環境大学の挑戦」

鳥取環境大学 教授 河原正彦さん